行政運営

平和願う公園施設の設置を

遺族会と今年度中に検討

矢野（やの） 昭三（しょうぞう） 議員

問 戦没者の霊を慰め、ご遺族等のご苦労、また今後の安寧を願い平和公園のような施設を設置する事が必要と考えるが、町の考えは。

答 大西 町長

遺族会ごとに、忠魂墓地の建立経過や維持、管理の仕方が異なる。

遺族会の皆様と協議し恒久平和を願い後世に受け継いで行くために、平和公園の様な施設の設置や管理について今年度中に考えていく。

問 各集落には高齢化や転出等により清掃等ができず荒廃している忠魂墓地があるが、どのように考えるか。

答 大西 町長

地域の皆様が高齢となり、維持管理が困難となれば遺族会を中心に今後どのように墓地をお守りするか協議をして頂く事が望ましい。行政も遺族会と共に協議する。

問 遺族会員も高齢化し、また減少の一途だが、どのように考えるか。

答 大西 町長

県遺族会の動き等を見ながら遺族会と共に協議を重ねたい。

問 平成29年2月県議会で慰霊碑に関して知事、教育長、地域福祉部長の答弁があった。町としての取り組みは。

答 大西 町長

これからも遺族、親族によって守り引き継がれることが最良。遺族会を中心に協議をして頂く事が望ましく、状況を詳細に把握していく。

答 坂本 教育長

慰霊碑は戦没者を追悼し、平和への思いを次の世代に受け継いで行くためにも大切なものと思っている。

問 疑似体験の研修の内容、成果、課題は何か。

答 大西 町長

疑似体験研修に毎年参加。高齢者や障がい者の側に立って考える事に繋がっている。職務に生かす取り組みを進める。

問 住民が困り果てて何度副町長の所へ出向き相談しても何の説明も返事もない。

職員が働きやすくするために規則等の整備を3月議会までに行うか。

答 松田 副町長

担当者等は、それぞれの業務に動いていたと認識している。

決済の重大性等、参考事例も含めて今年度、間に合わせたい。

高齢化などにより管理が難しくなっている忠魂墓地の一例（不破原地区）